

環境にやさしい土のリサイクル (流動化処理工)

流動化処理工法 は、土砂に泥水と固化材を加えて混練することにより、流動性を保持した状態で打設場所に流し込み、固化材の硬化を待つて処理を完了する**埋戻し工法**です。

共同溝側部の埋戻し

発注者 : 国土交通省 中部地方整備局



流動化処理工法は、多量に発生する建設発生土を材料として、高品質で大量の埋戻し材料に再生する**建設発生土のリサイクル工法**です

移動式プラント
(どろえもん)



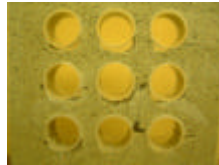
建設発生土量 年間 28,384 万 m³
(平成 12 年度実態調査)

模型実験による比較

流動化
処理工法



砂の水締め



- 管下部に空洞なし(全 9箇所)
 - 硬化後、沈下なし
- 密実な埋戻しが可能

- 管下部に空洞が発生(全 9箇所)
 - 水締め後、沈下が発生
- 密実な埋戻しが困難

埋設管部の埋戻し

発注者 : 首都高速道路公団



多条多段埋設管の埋戻し充填

発注者 : 名古屋市土木局



流動化処理工法により得られる効果

狭隘な場所、複雑な断面の場所を確実に充填します。
転圧締め作業が不要です。流し込むだけで埋戻しが完了するため、作業の簡素化、安全性の向上につながります。
建設発生土をリサイクルするため、環境保全につながります。
埋戻し場所の不等沈下がなく埋戻しの信頼性が向上します。
他工種と並行作業が可能であり、工期短縮につながります。

施工実績

国土交通省関連・・・30 件以上
高速道路公社関連・・・50 件以上
都道府県関連・・・400 件以上
電力関連・・・80 件以上
鉄道関連・・・100 件以上
全国 1100 件 (H5～H13)

トータルコストの改善により**経済性は砂の水締めと同程度です**

本工法は、旧建設省土木研究所と(社)日本建設業経営協会中央技術研究所との共同研究プロジェクトにより開発され、現在は流動化処理工法研究機構 (理事長 久野悟郎) による普及活動を実施しています。
当社は研究開始当初から開発普及活動を積極的に行っております。



徳倉建設株式会社

〒460-8615 名古屋市中区錦三丁目 13 番 5 号 中央マンションビル

TEL 052-961-3271 FAX 052-951-3393 URL <http://www.tokura.jp>